

〔様式第4号の1〕

令和5年 3月 31日

## 令和4年度 学生自主研究成果報告書

教 育 本 部 長 様

学生自主研究グループ名	コンビニ	
研究課題名	コンビニの品揃えからみる地域特性(その2)	
研究代表者 (学生)	学籍番号	B23D007
	氏 名	牛山 祐樹
指導教員	学 科	経営システム工学科
	氏 名	嶋崎 真仁

学生自主研究の報告書を別紙のとおり提出します。

コンビニの品揃えからみる地域特性(その2)  
-秋田市・由利本荘市・にかほ市との比較から-

システム科学技術学部 経営システム工学科  
2年 牛山 祐樹  
2年 熊田 修弥  
2年 佐藤 駿太郎  
指導教員 システム科学技術学部 経営システム工学科  
教授 嶋崎 真仁

### 1. 研究背景と目的

全国に数多くの店舗が展開されているコンビニエンスストア(以下、コンビニ)は、同系列のコンビニであっても、店舗ごとに取り扱っている商品や売り場の配置が異なる。商品の種類や陳列方法にどのような意図があるのかに興味を持った筆者らは昨年、由利本荘市本荘地区にある同系列のコンビニ7店舗を対象に、周辺環境と商品の品揃えを調査し、その違いから地域特性の考察を試みた(牛山,ほか[1])。その結果、各店舗には他の店舗にはない特徴の差異が大小あったものの、調査対象店舗を本荘地区に限定したため、他の店舗との差異が店舗オーナーの裁量権の影響である可能性を消しきれず、品揃えに地域差があるとは言い切れなかった。

本研究は、昨年の結果をふまえて調査対象地域を拡大し、由利本荘市本荘地区、由利本荘市東由利地区、にかほ市、秋田駅周辺の4地域にある同系列のコンビニ9店舗を対象に、周辺環境と商品の品揃えを調査し、その違いから品揃えの地域特性(周辺環境による影響)の考察を試みるものである。

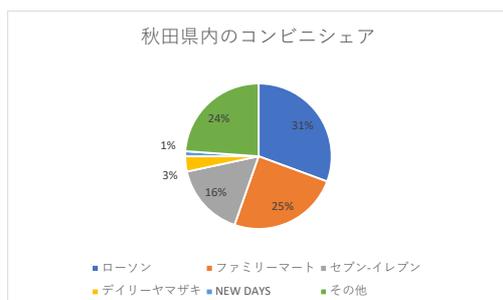


図1. 秋田県内におけるコンビニのシェア

なお、ローソンを調査対象とした理由は秋田県内において、最大の店舗数であるためである(流通企画[5])。

### 2. 研究方法

本研究では、コンビニに陳列されているコーールドリンク、ホットドリンク、地酒を対象とする。それぞれの陳列棚に置かれた商品名、製造会社名、容量、値段、店舗の立地のなどを実地調査によってデータをとる。得られたデータに数量化Ⅲ類(菅[2])を適用し、陳列商品の特徴を店舗ごとに調べる。

調査は、2022年の11月から2023年1月にかけて実施した。調査にご協力いただいたローソンは次の9店舗である(図1);本荘石脇(1)、由利本荘花畑町1丁目(2)、東由利老方(3)、仁賀保平沢(4)、にかほ平森(5)、にかほ金浦インター(6)、にかほ象潟町大砂川(7)、秋田保戸野原の町(8)、秋田大町二丁目(9)。

#### ・各店舗の立地

- 1→本荘地区。国道7号線沿い。
- 2→本荘地区。羽後本荘駅の最寄りコンビニ。
- 3→東由利地区。この地区唯一のコンビニ。
- 4, 5, 6, 7→にかほ市。国道7号線沿い。
- 8, 9→秋田市中心部に近い。



から読み取れる1店舗のみに販売されている商品(A, B, Cなど)は期間限定品やこの調査の期間中に新発売されたものであり、これらについては時期によってまだ取り扱っていただけの可能性がある。

## 4.2 地酒

お酒を対象に数量化Ⅲ類で解析した結果を図5に示す。

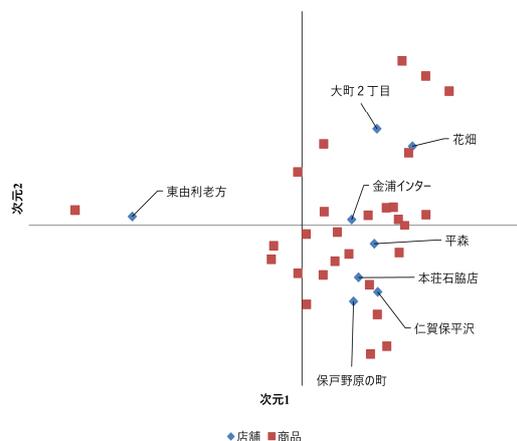


図5 お酒

酒類に関して一店舗を除いて大きな違いは無かった。本荘や秋田市の店舗のみに販売している商品はあるが製造会社や内容は他と変わらない。ただ老方のみ陳列配置から他店と異なっていた。他の店舗はワインや他の酒と一緒に陳列してあるのに対し、老方では日本酒はそれのみ独立した陳列棚が存在し、酒類の取り扱い種類と販売本数が明らかに他の店舗より多く販売されている。「松声」や「福小町」などあまりスーパーやコンビニなどにはあまり流通していないものもあった。

周囲を山に囲まれ、小中学校は一つずつ、高校や専門学校のない東由利地域は県内で最も「若者離れ」が進んでいる地域の一つでもある。食品販売店はこのローソン以外に、道の駅とスーパーが1店舗のみとなっている。そのため、移動手段が少ない高齢者や働く人に向

けて酒類やおつまみなどを多く取り扱うのは、顧客の年齢層をふまえたこの地域のニーズにマッチしたものであり、酒類の製造側としても地域の販売場所が限られているため、コンビニに多種類の商品を提供していると考えられる。

## 4.3 コールドドリンク

コールドドリンクを対象に数量化Ⅲ類で解析した結果を図6に示す。

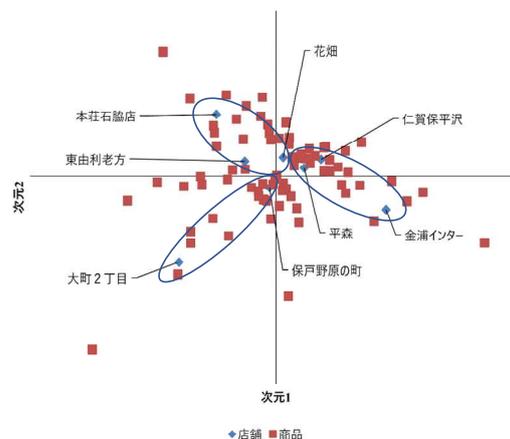


図6 コールドドリンク

コールド・ホット・お酒の中で最も種類が多かったのがコールドドリンクであり、種類数の最多は107(石脇)、最小は73(平沢)となった。8店舗で283商品が販売されていたが、8店舗の全てで販売されていたのは24商品(8.4%)であった。また、自社のプライベートブランドである「ローソンセレクト」についても、確認のできた17商品のうち、全店舗で販売されていたのはわずか3商品(17.4%)であった。同じローソンではあるが、どの店舗でも共通している商品がこれほど少ないのは少々驚きであったが、文字通り、各店舗ごとに様々な飲料水を扱っていることがわかる。

コールドドリンクについては、ホット、お酒の分析結果とは違い、図6のように秋田市、由

利本荘市,にかほ市の3市それぞれについて地域ごとの相関がみられる結果となった。

その店舗のみ販売している種類数が10を超えるのは本荘石脇(15),金浦(16),大町二丁目(13),老方(10)であり、このうち老方以外の3店舗は図6においても他店舗との違いが反映され中心からは離れている。

一方で,老方は他の3店舗とは違い図6においては中心部に位置している。これは,他店舗との共通の商品が多いことを示すが,「4.2地酒」でも触れたように老方は周辺環境により,一店舗で多様なニーズに応える必要があるために,一般的に需要の高い商品だけでなく,他店舗では扱わないものも取り揃えようとする方針があるのではないかと推察される。

## 5. まとめ

今回の研究では,昨年の研究よりも調査対象地域を広げることで,コンビニの品揃えに現れる地域特性(周辺環境による影響を)を調査した。

品揃えの地域特性が顕著に現れたのが,東由利老方であった。周囲を山に囲まれ,他の食品販売店も数少ない東由利地域において,東由利老方は今回調査した他のどの店舗よりも周辺地域を意識した品揃えになっていた。

## 参考文献

[1] 牛山祐樹,櫻井航士,佐藤駿太郎,山村陽大,嶋崎真仁:コンビニの品揃えからみる地域特性— 由利本荘市での調査を事例として —, 社会情報学会東北支部・日本設備管理学会東北支部合同研究発表会抄録集, 2022, pp. 17-18.

[2] 菅民郎: 例題とExcel演習で学ぶ多変量解析 因子分析・コレスポンデンス分析・クラスター分析編, オーム社, 2017.

[3] 清水裕士: “フリーの統計分析ソフトHAD: 機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案,” メディア・情報・コミュニケーション研究, 1, pp. 59-73, 2016.

[4] 野田芳成: 地域1番店になる! 「競合店調査」の上手なすすめ方, 同文館出版, 2009.

[5] 流通企画: CVS マーケット年鑑2019年版, 流通企画, 2019.